

(橋裏書)

「ひかへ」

乍恐袖控

一 元録(マニ)九年竹嶋渡海  
 御制禁被為仰出其後  
 家業失、雲州江引越シ  
 願出候所、其段以御憐愍  
 御差留被仰附、則其刻  
 魚鳥問屋座九右衛門  
 家錄被仰付候旨、燒殘之

旧記御座候、左候得八元録(マニ)

宝永之間と奉存候、尤鳥  
 魚口錢取被為仰付候節ハ

乍恐

本源院様御代、則御奉書(マニ)

七月十四日と御座候得共年号ハ

御書載無御座候、尤其節町

御奉行益田村井御両家

御勤被遊候砌御座候、且私

先祖江不被蒙仰已前著

何れへ相蒙居候哉、一向承

伝居不申上候

一 正徳五年乙未八月二日大谷  
 九右衛門問屋名代手代を問屋と

致し御肴御用等も手代

出し勤候様被仰付

一日々江とあミニ肴ニ至迄問屋江  
 出し壳候様、目代儀右衛門江

申付候様被仰付

右之趣年寄役月番大谷

藤兵衛、則蒙仰私方へも

被仰渡候、此段旧記書頤

御座候間、御届申上候、已上

未三月日

大谷新九郎